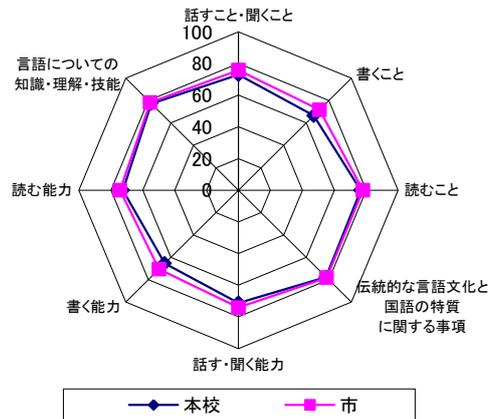


# 宇都宮市立宝木小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.0	75.9	71.7
	書くこと	66.7	71.8	73.2
	読むこと	76.5	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.5	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	71.2	74.2	70.8
	書く能力	65.4	70.4	71.0
	読む能力	72.5	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	77.3	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>●市の平均と比べると、2.9ポイント下回っている。特に、設問1(2)で、2人の発表者の共通点を選ぶという問題の正答率が市と比べて5.9ポイントも下回っている。</p> <p>○話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことについては、市の平均とほぼ同じ97.0%の正答率であった。</p>	<p>話の内容は大体わかるが、それが意見なのか、その理由なのか、反論や体験からのものなのかという違いにまで分類することができていない児童が多い。また、2点以上の観点にまたがった設問に対しては、正答率が低い。聞いたことを整理してまとめる作業を丁寧に指導したい。</p>
書くこと	<p>●市の平均と比べると、5.1ポイントと大きく下回っている。</p> <p>○●設問をみると、与えられた情報から、さらに必要な情報を書き足すものと指定された条件で作文する問題であるが、回答した児童のほとんどが正答率100%であり、回答をあきらめて、正答率0%となる児童のどちらかに分かれてしまい、部分点や一部正解による加点をされている児童の割合が低い。</p>	<p>設問をみると、学校生活場面での広報文や作文、グラフから読み取ったことをもとに、自分の考えを書くという内容である。体験活動や行事後の作文などに対しては、自分の感じたことや思ったことを、よく書くことができていた。しかし、学力調査形式の設問による作文に対しては、抵抗を感じ、書き始める前に諦めてしまった児童が多くいたと思われる。授業だけでなく学校生活場面での出来事を表やグラフにまとめ、さらに自分の意見を加える活動を意図的に行わせていく。</p>
読むこと	<p>●○市の平均と比べると、1.5ポイント下回っているものの、設問を細かく見てみると、市の平均とほぼ同じか、上回っているものも多い。</p> <p>●突出して正答率が低かったものが設問5(3)で、2つの段落の書き方の同じ特徴を答えさせる問題である。</p>	<p>読解については、どこに何が書いてあるということは、比較的良好にわかり、正答率もよい。しかし、2つ以上の段落にまたがって、共通点を見つける問題の正答率が低い。2つの文を比較させたり、共通部分を見つけさせたりする学習内容を加え、指導していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●○市の平均と比べると、0.7ポイント下回っているものの設問によっては、高い正答率のものもある。</p> <p>○漢字の読みで「朗報(ろうほう)」の正答率は市と比べて高く、漢字の書きでは、「きよか(許可)」は5.2ポイントも高い。</p> <p>●漢字の読みで、「枝(えだ)」の正答率は市と比べて2.5ポイント低く、漢字の書きで、「ぬの(布)」は、4.3ポイント低い。</p>	<p>漢字の書き取りについては、市と比べて大きく上回る正答率と、大きく下回るものがあり、安定した学力になっているとはいえない。ステップアップシート学習や家庭学習をさらに充実させ、基礎的な学習の習熟を図っていく。</p>